

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



名流・長良川まで徒歩5分の住宅街に立つ 輝美濃分教会
平成16年、道路拡張事業により新築建て替え。(4月4日撮影)

立教180年
4月号



学生層育成講習会

学生層を育成する

上での角目

3・21 学生層育成者講習会 開催

学生担当委員会

大教会学生担当委員会(山野弘実委員長)は3月21日、茶谷良佐先生(本部学生担当委員・泉大教会長)を講師に迎え、大教会3月月次祭後に「学生層育成者講習会」を開催、197人が参加した。学生層をはじめとする道の後継者育成の重要性を理解すると共に、活動を広めていく事を目的に毎年開催し

ているもの。

講話要旨は次の通り。

只今から、学生層を育成する上で最も大切と思う角目を一点に絞ってお話をします。一つ目が、おちばの行事に参加させよう、特に学修についてお話をします。二つ目に、育成する私たちは、積極的ににをいがけをさせて頂こう。この二点についてご相談したいと思います。

おちばの行事に参加させよう

学修に参加した一人の学生さんを紹介します。この子は人とうまく付き合えない、人に自分の気持ちを伝えるのがとても苦手な子です。自宅では会話をすることも、社会的な場所になると難しい。そのことで人に勘違いされているじめにも遭ったそうです。学修がスタートして、担当のカウンセラーがびつくりした。全く話をしないし、どんなことを伝えてもほとんど反応を見せられない。スタッフやカウンセラーは、どうしたらいいのかと悩んでいました。そんな中、次第に班が一つになって、班員同士が助け合うのです。ファッションや雰囲気、外見の異なる

様々な学生たちが、その子に寄り添って行くのです。実はこの子は、夏の高校の部にも二回参加していて、今回の学修で三回目の参加になります。これまでの参加で仲間のぬくもりを実感したからこそ、苦手な場所だけれども参加してくれたのだと思います。ここには自分を認めてくれる仲間がいる、とても温かい場所であったに違いありません。これが学修です。おちばには教祖のぬくもりが満ち溢れているからです。

もう一人紹介します。

この子は私が話していても睨みつけるような顔で聞く子です。この子が期間中に風邪をひいてしまった。両親、カウンセラーと相談して、途中で辞退してもらおうことになりました。せっかく参加してくれたのに、帰らざるを得なくなつた彼に対して、非常に申し訳なく、また可愛そうだなとも思いました。ですから、「またおちばで皆と出合える機会があるよ。だから今回は早く風邪を治して頑張ってくれ。」と手を差し出して握手しようとなりました。しかしその子は握手を返してくれませんでした。すると、その子をずっと見てくれていた女子スタッフが、「あの子ね、私に『俺

帰りたくない』って言ってました。」と教えてくれました。そこで彼のために何かさせてもらおうと、カウンセラーと相談しました。そしてその子が帰りの車に乗る前に、班全員で見送ろうということになった。その彼が車に乗る瞬間、「○○！」と言って駆け寄つたのです。すると彼は、ぶっきらぼうながらも、「ああ」と言いながら皆と握手をしているのです。「また今度絶対会おうや。次は28日やで」って。今月の3月28日は春の学生おちばがえりがあります。その光景を見て、学生同士ってすごいな、と目頭が熱くなりました。

また、8月9日から15日まで、学修高校の部があります。こちらもすごいプログラムが用意されており、仲間との存在、たすけ合いの大切さ、そして親への感謝を気づかせて、日々の当たり前こそ親神様の御守護だということ、そしてその御守護に報いる道を歩んで陽気ぐらしを目指そう、と仕上げていきます。その間には仲間と語り合える時間もありません。

まず、学修の最初にチームエクササイズというプログラム(T.E)があります。要は規律訓練。このT.Eが始まる

までは、スタッフも学生も和気あいあいとしているのです。しかし突然カウンセラーが豹変し、「気を付け！ 休め、ならえ！ 返事せんか！」って言う。

これには学生は戸惑って、中には腹立てる子もいます。しかしそのような理不尽と思えるTEでも、不思議と徐々に学生の表情、態度、動きが変わっていきまます。気がつけば、声も行動も班全員がビシッと揃って行く。指導しているカウンセラーがまた、いいことを言うのです。「これからの一週間があなたの人生に大きくかわってくるのやぞ。ここでどれだけ自分を出し切れるか、やりきれるか、そのことよつてこの一週間がより良いものになるのや。自分から逃げたらあかん。俺も前からとともに全力で一週間つきあつていく。俺らで心一つにしてこの一週間乗り切ろう。自分のためだけじゃないぞ、みんなのためにもこのTE一生懸命しよう。」と。

中には泣く子もいます。しかしその中で班員の子が心を倒しそうな子にそつと手を差し伸べているのです。また、耳元で何かささやいている。恐らく、「頑張ろう、もう少しの辛抱や」、「俺らも一緒にやっついていくんや」、そ

んな言葉を投げかけているのだと思います。TEの本当の目的を目の当たりにして、これを最初に行うことは間違いないと確信しました。

積極的ににいがけをさせて頂こう

学生会活動に携わり、学生さんと次第に心が打ち解けてきた中で、若い子の衝撃的な心の内というものを聞かせてもらいました。「教会は信者さんも減ってきてお金が大変って、よく親や周りからも言われる。私は働いたほうがいいのでしょうか。」「また「親の跡を継いで教会長をやる自信がない。」「などなど。さらに、「学修など学生会行事に参加したら、さあ帰ったら頑張ろうと勇んで帰るのに、教会や家へ帰ったら勇めなくなるのはなぜなのですか。私が悪いのですか。」「親や教会長さん、先生が神様のお話をしてくれる。けれども、言っている人が実際にやっていることが違うと思うのです。私がそれを見るのがショックなのです。」

お道の教えは好きなのですね。けれども自分はお道を信仰して、毎日誰を見本にしているのかわからない、という事なのです。これを聞いて、もの

すごく反省致しました。もしかしたら私の日々の姿が、純真な学生さんの気持ちを捻じ曲げてしまっていることもあるのじゃないのかなと。親神様の教えを自分色に変えて通って、若い子からしたら「え!？」と思うようなことをしていると思います。先に道を歩む私たちが、若者にどのような姿勢でお道の素晴らしさを伝えなければいけないのかを思案しました。どうすれば自分の姿を通してお道のすばらしさが伝わるのか。教祖のお供をさせて頂いて、人様をたすけさせて頂く喜び、これしかないと思います。

数年前、ある教友から目からウロコが落ちるような話をお聞きしました。明治20年6月19日のおさしづです。「若い者寄り来る厄介、世界から見れば厄介。なれど道から厄介ではない。道から十分大切。道は遠かるが言わん。たすけ一条と言う。これ聞き分け。十のものです。九つ半大切して、半分だけ出けん。十のものの半の理で九つ半まで消す。よう聞き分け。」

若人たちは陽気ぐらしを目指すのではなくてはならない大切な存在だということをもつて教えて頂いておりません。ではその若い人が育つにはどうし

たらよいか。十のものです。九つ半大切して半分だけでけん。十のものの半の理で九つ半まで消す。十のうち九つ半まで一生懸命頑張っているのに、あと半分、0.5この理を怠るから結果として今まで頑張つて九つ半まで積み上げてきたものが、無いものになると言うのです。この半の理と言うのが、我が子や若者のことを仰っていると聞きしました。また、九つ半というのが実はにいがけ・おたすけだということでした。一日を十にして、その九つ半がにいがけ・おたすけということですよ。やはり信仰生活の中心は、にいがけ・おたすけだと確信しました。

真柱様がにいがけについて、大阪教区女子布教訓練所創立10周年の記念の集いにおいて、次のようにお話し下さいました。「にいがけは自分のにいをかけるのではなく、親のにいをかけるのです。すなわち教祖の親心を伝えさせて頂くのです。従つてにいがけを志す者は教祖の思召しを求め、親のにいを身につけなければなりません。親のにいを身につける上で心しなければならぬことは、まず自らが教祖の教えに基づいた日々を素直に実践することです。」

私は、にをいがけというと、戸別訪問、また神名流しと、かたくなに思っておりましたが、このお話を聞かせて頂いて、まずは、毎日が教祖の教えに基づいた行動が出来ているということが大切な条件であると思ひ直しました。毎日の自分の姿がにをいがけ、それが教祖のにをいとして周りに映っていく。教祖の教えに基づいた日々を素直に実践することによって親のにをいを周囲にかける元となるものが自然と身についていくということです。

ある信者奥さんの話ですが、この方は毎年別席者を一人は作っておられます。この方、戸別訪問、自分はとてもじゃないけどできない、とおっしゃいます。でも、自分でできるおたすけとして、便所掃除を毎日心がけておられます。自分の家の便所、公衆便所やありとあらゆる所の便所。自分が便所を使った後にその掃除をされている。この方が主人とある店に行きました。そこはカラオケ喫茶でトイレがよく汚れるので、お店のママは時折トイレ掃除に行っておられた。ところがその日は何度行ってもトイレが綺麗なのです。おかしいなあ、これは誰か掃除してくれているに違いないと思つて、

来ているお客さんに尋ねました。するとその信者さんの奥さんが、「私がさせてもらったのです。」とわかったのです。今その店のママは、その奥さんに感銘して、用木になってくれました。この奥さんは自分が使っている場所はせめてもその後の人が使いやすいようにと、それが自分にできる教祖のひながたの実践だということで、努力を続けていた。その積み重ねによって、教祖のにをいがけその店のママにかかり、別席を運んでくれたということです。にをいがけに決まったスタイルはありません。自分の日々の生活の中で、少しでも教祖のひながたの実践に近くにはどうしたらいいか、できることを考えてしていく。そしてそれを続けていく。にをいがけはこうだと片意地を張っていた自分でしたが、もっと柔らかい気持ちで日々の生活の一部としてさせてもらおうと思ひました。

最後に、現在夫婦で面倒を見ている17歳の女の子のお話をします。10年ほど前、幼子3人を連れた女性が、ドメスティックバイオレンス(DV)を理由に、教会に駆け込んできました。そのような状況でしたから、すぐに修養科に入ってもらった。修養科を出て家族

が落ち着いた日々を過ごす中に、神実さんを祀ってくれることになりました。父親代わりになれたらと思ひ、何度かその家に泊まり、その子達とお風呂に入りました。ピクニックにも一緒に行ったりもしました。

しかしその女の子が思春期になると、段々と様子が変わってきた。彼女は当時小学校2年でしたから、DV事情を理解できないまま、親が離婚したわけです。だから彼女は、今の家庭の状況があるのはお母さんが我慢せずに離婚をしたからだと思うようになってきた。そして中学生にもなると、ほとんど家に帰らなくなり、手のつけられないようになってきた。何を言ってもどないしても、その子はこちらの言うことを聞いてくれない。全く心が通じ合わなくなつた。警察にも何度も行きました。しかしこの子を高校だけでも入れたいと思ひ、説得してやつと通信制の高校に入れました。学修に行かそうと思ひ、何回も声をかけましたが、結局一度も行ってくれませんでした。それから時間が過ぎ、しばらくたった時にこの子から連絡があつたのです。「会長さん、子供できました。」と。「その相手はだれや」と聞いたら、ホストやつ

てる21歳の男なのです。どうも子供を身ごもつて不安になつたようで、一人で産めるのになつて。「じゃあ自宅に帰れ」という事で何年かぶりに自宅に戻つて来てくれて、親と毎日過ごすようになった。今まで閉ざしていた気持ちがあつたと開かれた瞬間だつた。ああ、これがおぢばの理かなと思ひました。学修には行つてくれなかつたけれども、声をかけ続けた理がここに芽生えたのかなど。行事に誘つても、若い子は簡単には参加してはくれませんが、大切なのはその匂々に声を流すかどうかだと思います。すぐには行つてもらえなくても、声をかければかけるほど積み重なつたその声によって、親神様はその子の必要な時に、土壇場で助けて下さるのではないかと思ひます。だから学修の参加人数を増やすことも大切ですが、私たちの役目は匂いの声を逃さずに声をかけ続けていくことだと思ひます。

今年3月28日、春の学生おぢばがえりがあります。そして夏の学修。ここに何としても一人でも多くの人に行つてもらえるように、ご協力下さいませようお願いします。今日のお話を終わらせて頂きます。

《以上要約》

雅楽勉強会 開催

3・5

雅鶯会

雅鶯会は、3月5日、大教会で初心者と初級者を対象に雅楽勉強会を行いました。受講者は、終始熱心に取り組み、最後のお供え演奏では、当初の目的である平調・越殿楽を雅に、また短い練習時間だったとは思えないほどの迫力ある演奏を奏でることができました。少年会員には、次の目標であるおつとめまなび総会での雅楽奉仕が待っており、各自のさらなる練習を望むところです。

参加者は、13人とスタッフ5人の計18人でした。(雅鶯会楽長 中島誠治)

「次代を担うようぼくへ」

春の学生おぢばがえり

本部中庭で

学生会

3月28日、本部中庭で春の学生おぢばがえり式典が開催され、全国からおよそ5千人が参集した。式典後の直属アワーには、笠岡に繋がる岡山・広島・



室内オリンピック風景



学生同士の意見交換

鳥取・島根・大阪・千葉など各教区の学生45人が参加した。



笠岡に繋がる45人

詰所三階講堂で行われた直属アワーでは、まず大教会長様が、時代の流れに左右されない信仰信念を持つ重要性などについて話された。その後、昼食を挟んで班別對抗室内オリンピックが開催された。今回は、企画・運営・司会など全て学生が行い、大変盛り上がりを見せた。学生たちは、同じ笠岡に繋がる者同士の絆をおぢばで更に深めた。



鼓笛合宿練習風景

この合宿では、今年のおぢばがえりのテーマソング『笑顔ひろがれたすけあい』の習得を目指し、つた。笠岡むつみ鼓笛隊は、毎年恒例の春の鼓笛合同合宿を3月30日から4月1日にかけて開催した。今回は、直轄、福山、高屋、島根より隊員スタッフ合わせて84人(うち隊員57人)が参加した。

「春の鼓笛合宿」行う

3・30〜4・1 大教会で

笠岡むつみ鼓笛隊



一生懸命にファイフ練習

アイフ、ドラム、キーボード、グロツケン、アコーディオン、ポンポンの各パートに分かれ、連日練習が行われた。また、現役の天理教校学園高校マーチングバンド部員指導の下、行進練習もした。

初日の夜には、「室内オリンピック」が開催され、所属の隊、学年を超えて楽しいひとときを過ごした。

参加者はこの合宿を通して、演奏演技の技術を高めると共に、同じ笠岡に繋がる者同士の絆を深めた。

尚、4月1日のおつとめまなび総会後に、神殿で鼓笛お供演奏を行った。



真剣におつとめまなび

前日の雨で今年も雨の総会かと思いましたが、肌寒いものの心地よい晴れのお天気に恵まれ、土曜日の開催と総会でした。

立教180年4月1日開催。参加者少年会員259人、育成会員202人、総数461人(受付数)。

昨年は、大教会長さまが身上で倒れられて初めて人前にて挨拶され、かじものの結構さを少年会員に訴えられた総会でした。

おつとめまなび総会

開催

4・1 大教会

少年会



模擬店也大盛況

あつて500人近い参加者のご守護を頂いて賑やかに勤めさせて頂きました。模擬店もリニューアルオープンし、東ブロック(スイーツ)、西ブロック(ピラフ)、福山ブロック(ホットドック)、高屋ブロック(パスタ)、島根ブロック(コーンスープとジュース)、上下ブロック(チキンナゲット)、府中市ブロック(射的)、久松ブロック(スパーポールすくい)となり、各模擬店担当者も初売りに緊張しながらつとめておりました。家族連れの参加者も多く、中にはこの日以外は余り参拝に來られていないような方や、遠方からの里帰りに遊びに來られたという方もおられました。気軽に大教会に参拝させて頂ける



講堂での楽しい催し

ように願う総会もだんだんと定着してきたように思います。

さて、大教会長様は次への塚に向けて教えを伝えるかどめに「おつとめ」を挙げられておられます。年に一度のこの総会是个々の教会で子供におつとめを教え共々に練習し、大教会でつとめさせて頂く大変意義深い行事であります。毎年開催させて頂くことに大教会長様もたいへんお喜びになつておられます。将来、個々の教会の重要なようぼく育成の場となっているこの総会、皆様と共にさらに内容のあるものになるようご助言を頂いてつとめてまいりたいと思いますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。(M・F)

「桜祭り」開催
花咲か爺さん 現わる
 4・9 大教会で
海外部

開催数日前より、バザーに出品される物資がたくさん届く中、講堂・ピロテイーでは、連日、多くの有志のきしん者によって仕分け作業等が行われたが、



井原吹奏楽団



雅鶯会の演奏



模擬店会場



バザー会場

海外部は、4月9日、「桜祭り」と題してアフリカ支援バザーを行った。大教会参道・駐車場周囲に植えられたサクラの木も、近年は桜の名所と言っても恥ずかしくない程の見事な景観に育った。

この折角の景観を地域の方々にもご覧いただきたいとの思いもあつて、大教会で花見を兼ねたバザーを開催、その収益金をアフリカ支援金とすることを目的に開催されたもの。

如何せん、桜の開花は気まぐれなお天気に大いに左右される。4月6日現在で3分咲き、9日までもほぼお天気が悪いとの予報で、開催当日には「まだ5分咲き、しかも雨」と予想された。

ところが、時折雨は降りはしたものの、日を追う毎に気温も上がり、見る見る開花、当日にはほぼ満開となった。主催者の謝辞は次の通り。

当日参加できた海外部員は7人。それ以外は全て有志のひのきしんで、スタッフ65人がアフリカの孤児支援を目的に心を寄せてくださいました。この度の行事ほど本当に多くの積極的やさしい心に支えられた行事はなかつたと感じます。

バザーの品を出品してくださいました方々、集まった物を仕分けして値を付けて下さった方々、何かさせてもらおうと模擬店を持ってくださった方々、会場を準備してくださいました方々、さらに会場を盛り上げようと参加してくださいました井原吹奏楽団メルヘンウィンドアンサンブル、雅鶯会、和太鼓、ダン

スの方々。そして当日会場に足を運んでくださった300人近い方々。感謝の一言に尽きます。今回のもう一つの目的であった近隣の方々に大教会に足を運んでいただくという目標も、会場での地域の人の顔を見つけ嬉しい悲鳴となりました。

さて、今回の収益金は未だ(4月15日現在)集計が出ていませんが、5月末、今年で9年目になるタンザニアおたすけ訪問で孤児院や小中学校などを訪問して、その状況を判断して寄付させて頂くと共にアフリカ支援金として使用させて頂きます。本当に有難うございました。

(海外部長 上原志郎)

「有志 ひのきしん隊」実施

青年会

青年会笠岡分会(上原明勇委員長)は、3月6日、4月2日、有志ひのきしん隊を実施した。この度は、青年会裏の屋根の老朽化に伴う、修理を延べ8人で行った。

コンパネの上に防水シートを張り、その上に波板を張った。ひのきしんにより、防水性、耐久性に優れた屋根となった。

3月は青年会室周
辺の木の伐採を行
い、雨漏りの応急処
置をした。4月は、
古い波板を撤去し、



↑ Before ↓ After



談話室



学修に参加してみて

海松ヶ岡分教会 森本忠一

僕はこの春、3月の3日から9日までの1週間学生生徒修養会大学の部に参加させていただきました。

学修という単語は聞いたことがある人も多いと思います。

僕も聞いたことはあったのですが、参加したのは去年の高校卒業の部が初めてで、とても楽しかったので今回も参加しました！

学修はお道の勉強もちろんしますが、色々な地方から来てる子たちと関わる機会が多く、自分の経験してきた事や、今までの出来事、今考えている事などを話し合うことで、自分の物事に対する価値観が少しずつ変わりました。

そして自分でもびっくりするくらい友達と仲良くなって、今でも連絡を取り合うような友達がいっぱい出来ました。

僕がこの期間で1番印象に残っているのは、にをいがけ、です。

学修では全員が班に分かれるのですが、その班員で大阪に行つて神名流し、路傍講演、ゴミ拾いをするという内容

でした。

不安はありませんでしたが、初めての路傍講演ということで緊張していました。班全員で協力してなんとか無事帰ってこることが出来ました。その達成感とともに、にをいがけの難しさを痛感しました。パンフレット1枚をどうやったら1人でも多くの方に受け取ってもらえるかと考えているうちにワクワクしてきました。

僕は、にをいがけの仕方が自分のこれからの課題だと思いました。

普段できない経験が仲良くなった友達とできるという事が学修の醍醐味だと思います。

本当に濃く、今後に繋がる経験をす

ることができました。

他にも楽しい行事を求めている人、友達、色々な方に受けてもらい、自身で体験してほしいなと思いました。



学修での仲間達

パンフ配布に参加して

皆部分教会 河原喜一郎

去る3月23日、広島平和記念公園において、外国人観光客を対象としたにいがけ活動がおこなわれた。参加したのは海外部を中心とする9名。平均年齢は推測で36・3歳。1歳と6歳の子供を含む。

にいがけに先立って、世界平和を祈りつつ、おちばの方角を向いてよろづよ八首を踊る。どこで踊ったかというと、元安川沿いの遊歩道脇の芝生スペースである。私は屋外で、をどりをするのは初めてであったが、川越しに広島街を眺めながらのよろづよ八首というのも、開放感があつて意外と楽しいものである。警備員も通りかかるが、お互いに見て見ぬふりだ。そして祈ろう。



「マジカルミラクルせかいよせかいよへいわになーれ!」

我々がそう祈って以来、世界は心なしか平和である。ノーベル賞くれ。

次はパンフレット配布。2〜3人ずつ3チームに分かれて公園各所に散る。どんなパンフレットか見てみると、まあ当然外国語で書かれているわけで、英・仏・独・中・ポの各種が取り揃えてある。「ポ」ってなんだ。ポラランドではなくポルトガルですね。ブラジルの人に配りましょう。

内容は、天理教の成り立ち、かしまの・かりもの、陽気ぐらし、おちばの紹介、大体これらのことについて簡潔に述べられている。他にはおふでさきから数首が翻訳されている。

海外の人に布教するというと大変なように聞こえるが、最低限の布教活動としては、単にパンフレットを受け取ってもらうだけである。簡単じゃろうがそねーなもん(広島弁では「そがーなもん」)、と思われるだろうか。

ティッシュ配りと違うのは、なんとなく気の利いた感じの会話に持つていく必要があるということだ。

「えくすきゅーずみー、ふえああーゆふるむ?」

「England」

「……ふりーずりーどでいすばんふれつと」

「……」

いかがだろうか、ざっとこんな感じだ。

つまり当然のことながら、与えられたセリフを棒読みするだけでは会話にならないのである。申し遅れましたがワタクシ英会話は一切できません。

ノーイングリッシュマイライフ。ならば、何を武器にして外国人に突撃するかといえば、勿論、布教への情熱である。これさえあり余っていれば、どれだけ断られようが無視されようがへこむことはない。ところが万が一、会話力も情熱もそんなにあり余っていない場合はどうなるか。私のようにな

広島平和記念館の出口階段下あたりで待機していれば、見学を終えた外国人がなんぼでもゾロゾロ出てくるのである。海外布教を目的としているのだから、これはもう宝の山、入れ食い状態、警備員も見えて見ぬふりだ。だが会話と布教マインドに自信がないと、お宝の山を前にして二の足を踏むことになる。二の足を踏むのに忙しすぎて、

前へ出る足と、会話のためのお口がおろそかになる。踏み過ぎた二の足は筋肉痛だ。

まあしかしですね、終わってみれば面白い経験だったし、楽しい一日でした。これ読んで興味を持ったかたは、遠足気分がいいので次回参加してみてください。

ローマ帝国にキリスト教が広まり、国教にまでなったのは、ローマを訪れた観光客に対して積極的な布教を行なったのが一因であると、このたび海外部の人から聞いた。それと比較するわけではないが、笠岡の海外部でも、街頭でのパンフレット配布活動によってタンザニアに道がついた実績がある。タンザニアの一人の医師が天理教に興味を持ってくれたのが契機となつて、現在までに、1名の修養科生を含む6名のおふぼくができた。

海外部の皆さんは、このタンザニアへの道を拡幅すべく頑張っておられる。応援よろしくお願ひします。

広島平和記念公園での今回の配布結果・国別の内訳：台湾・カナダ・メキシコ・仏・独・米・ポーランド・インドネシア・デンマーク・英豪・ノルウェー。以上12か国、43件。

立教百八十年 二月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり				おつとめ			地方			役割 区分	講話 学生層育成者講習会	扨者		祭主		
									門脇	田中	大教会	上原	上原	上原	大教会	中村	今川	吉岡			坐り勤	中村	上原	大教会	中村
今川	上原	虫明	中島	森本	笹尾	門脇	谷内	岡崎	門脇	田中	大教会	上原	上原	大教会	中村	今川	吉岡	坐り勤	学生層育成者講習会	中村	上原	大教会	中村	上原	大教会
佐智子	順子	好美	誠治	忠平	正治	元教	伸自	真一	郁子	ますみ	奥様	繁道	明勇	長様	義太郎	昌彦	壽			中村	道徳	義太郎	道徳	義太郎	義太郎
尾一美	谷内	森本	浅野	横山	中村	高木	山田	森本	高木	岡崎	武内	山野	三島	中村	武内	上原	田中	前半	五月講話	指図方	上原	渡邊	武内	渡邊	武内
和美	美知子	富美子	明教	逸郎	道徳	昭祥	敏教	忠善	孝子	豊子	正美	弘実	渉	邦義	清明	志郎	隆之		縦の伝道講習会	上原	繁道	清明	繁道	清明	繁道
岡崎	室悦	横山	内海	渡邊	上原	田林	赤木	佐藤	中村	門脇	内海	上原	杉原	中村	虫明	吉岡	佐藤	後半		上原	繁道	立生	誠一郎	道孝	道孝
和美	悦子	小智	史郎	隆夫	繁次	久嗣	素志	真孝	初美	加津	安子	浩	博之	剛	立生	誠一郎	道孝			上原	繁道	立生	誠一郎	道孝	道孝

立教百八十年 春季霊祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり				おつとめ			地方			役割 区分	講話	扨者		祭主		
									上原 <th>田中 <th>大教会 <th>中村 <th>上原 <th>上原 <th>上原 <th>大教会 <th>上原 <th>上原 <th>大教会 <th>藤井 <th>仙田 <th>北川 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	田中 <th>大教会 <th>中村 <th>上原 <th>上原 <th>上原 <th>大教会 <th>上原 <th>上原 <th>大教会 <th>藤井 <th>仙田 <th>北川 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	大教会 <th>中村 <th>上原 <th>上原 <th>上原 <th>大教会 <th>上原 <th>上原 <th>大教会 <th>藤井 <th>仙田 <th>北川 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	中村 <th>上原 <th>上原 <th>上原 <th>大教会 <th>上原 <th>上原 <th>大教会 <th>藤井 <th>仙田 <th>北川 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	上原 <th>上原 <th>上原 <th>大教会 <th>上原 <th>上原 <th>大教会 <th>藤井 <th>仙田 <th>北川 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	上原 <th>上原 <th>大教会 <th>上原 <th>上原 <th>大教会 <th>藤井 <th>仙田 <th>北川 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	上原 <th>大教会 <th>上原 <th>上原 <th>大教会 <th>藤井 <th>仙田 <th>北川 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	大教会 <th>上原 <th>上原 <th>大教会 <th>藤井 <th>仙田 <th>北川 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	上原 <th>上原 <th>大教会 <th>藤井 <th>仙田 <th>北川 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	上原 <th>大教会 <th>藤井 <th>仙田 <th>北川 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>			大教会 <th>藤井 <th>仙田 <th>北川 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	藤井 <th>仙田 <th>北川 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	仙田 <th>北川 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	北川 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 </th></th></th></th></th></th></th></th></th>	今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 <th>今川 <th>中村 <th>大教会 </th></th></th></th></th></th></th></th>
岡崎	門脇	佐藤	上原	山田	内海	三島	横山	浅野	上原	田中	大教会	中村	上原	上原	上原	上原	大教会	前半		指図方	佐藤	上原	佐藤	上原	佐藤
豊子	加津	香苗	志郎	敏教	史郎	涉郎	逸郎	明教	順子	ますみ	奥様	剛	繁道	明勇	次浩	浩	長様			佐藤	道孝	真孝	繁次	真孝	真孝
三島	吉岡	内海	西村	谷内	藤井	雑賀	三嶋	掛谷	横山	谷内	武内	仙田	三代	上原	藤井	仙田	北川	後半		佐藤	道孝	真孝	繁次	真孝	
照美	八恵	安子	靖彦	秀自	保人	元生	正教	宣和	小智	美知子	正美	公男	幸	明勇	治喜	勉	壯一			佐藤	道孝	真孝	繁次	真孝	

三月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には一列人間の陽気ぐらしを楽しみに御守護お導きを賜り日々は結構に恙なくお連れ通り頂いております分けても今は梅も盛りを過ぎ三寒四温を繰り返しながら 桜はまだですが春の訪れを感じる季節となりました事は誠に有難い極みでございます 私共は日頃かしの・かりものの御教えにより親神様に生かされている喜びと感謝の心で生活くらしさせて頂いておりますと共に 身上や事情を通していんねんを悟らせて頂いておりますので 御恩報じを念じて朝夕に御礼申し上げつつたすけ一条のご用の上に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日よきひは此の教会の三月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜び心たすけ心も一入に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には春の訪れに心躍らせ今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 相共にお歌を唱和し日頃のご高恩に改めて御礼申し上げ尚も変わらぬ親心にお縋りする様をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて年度替わりに当たり進級する者 進学する者 新たに社会人となる者等多くの若者が人生の転機を迎えています 大小の希望と不安を抱え心が不安定になっており 加えて世の中が凄スピードで変化をしていますので尚更です そういう時だからこそ変わらぬ親心と真実を知るべきと 本日は学生層育成者講習会を開催させて頂き育成の大切さを認識し共有したいと存じます

又一月の直轄教会への大祭参拝 二月三月の部内教会への巡教を通して「かしのかりものの喜び感謝の心」「御恩報じの心」「育てる心」の徹底を図り次の塚・教祖百四十年祭に向けて新たな歩み出しをさせて頂きました 一手一つに心を揃えて成人の歩み進めさせて頂く所存でございます

何卒親神様には親を信じ親に凭れてたすけ一条に励む皆の誠実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に親心一杯の自由の御守護を賜り 親神様教祖の一列子供を助けたいとの親心に触れ 御恩報じを願う人が弥増してお望み下さる陽気ぐらしへとお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されてきたので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽4月2日付「時報歌壇」

・海松ヶ岡◎ 藤井光子さん

思いやりも心遣いもある夫に

バレンタインのチョコを渡しぬ

▽4月9日付「時報俳壇」

・備中◎ 塩飽利子さん

裏山に明るさこぼす藪椿やぶつばき

▼『陽気』誌4月号「道柳」より転載。

▽準秀詠

・東悠◎ 田林美智子さん

守護の芽は節を乗りきり感謝から

▼表紙写真 (輝美濃分教会提供)

大教会だより

◎教人資格講習会(後期)修了者

立教180年4月10日終講

稲瀬 前原英子

◎三日講習会全課程修了者

立教180年3月30日終講

高丸 谷本雅子

春季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の神霊 初代真柱様並びに奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代会長上原伊助大人光刀自の神霊 三代会長上原繁雄大人くに多刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人朝子刀自せい子刀自の神霊 歴代会長と共に道の上に真実の種まきをして下さいました役員 部内教会長 教人 よふぼく 信者の神霊 諸々の神霊の前に 会長 上原理一慎んで申し上げます

祖霊様方には親神様教祖のお見定めにより旬に応じてこの道にお引き寄せを頂かれました 以来いんねんの自覚の元又陽気ぐらし建設のよふぼくとしての誇りと喜びも相まつてたすけ一条に邁進されました 今日お道の結構な姿をお見せ頂くのも 親神様教祖の御守護お導きの賜であります又一つにはそうした祖霊様方の真実の伏せ込み理作りの賜と 日々朝夕のお勤めを通して御礼申し上げます

その中本日は春の霊祭を執り行う日柄でございますので 先程親神様の御前にてをどりをとめさせて頂き 引き続きここに席を移させて頂きました 御前に海川山野の多目津物を供え祖霊様方の在りし日の面影を偲び御遺徳を称える皆の真実の状をご覧下さいまして祖霊様方にも心安らかにお納め下さいますようお願い申し上げます

さて次の塚教祖百四十年祭に向け歩み出しの年となりましたこの旬におちばより信仰の足下を見つめ直し一歩一歩確実に成人の歩みを進める事の重要性をお聞かせ下さい 加えて道の後継者育成が急務ともお聞かせ下さいました それを受け笠岡では 一月の直轄教会への大祭参拝 二月三月の部内巡教を通して「かしまのかりもの」の理をしつかり味わい ご恩報じの心を強め 育てを意識して成人の歩みを進める事を申し合わせて頂きました

信仰を次代に繋げてゆく事を良しとしない時代の考えに流されてしまった事を反省し 繋いでこそ陽気ぐらしへの近道であると心に治めてたすけ一条に邁進させて頂く所存でございますので 道の礎を築いて下さった祖霊様方には何かとお目怠い事とは思いますが 何卒時代の变化の中で一生懸命に親を慕い足跡を辿り あとに続けようとする皆の真実の心をお受け取り下さいまして 御心安らかにお見守り下さりお力添えを下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

訃報

岡本久善氏

大教会理事・摩耶分教会長
4月10日出直されました。
享年 77才



今、教内で育成という言葉をしきりと聞かせて頂くが、育成というか、子育てについて少し前に面白いテレビ番組を見た。

人間が一番近い類人猿のチンパンジーは、子供が独り立ちをするまでの五年間は母親が育児に専念して、次の子を妊娠することは出来ない。その点人間は、母体が元に戻り次第、次の子供を妊娠するこ

とができ、沢山の子供を次々と産むことができるようになっていく。沢山の子供を次々と産むのが、人間の大きな特性だということだ。そう

言えば、天理教の教会ではより人間らしく、この特性を活かした営みが多く見られるように思う。この特性は、人間独自の子育て術を編み出したことで獲得出来た。その子育て術というのが、仲間ですべて育てるという「共同養育」ということだ。太古の人間は、力を合わせ助け合うことで生き残り繁栄してきた。子育てに置いて、力を合わせ共同で養育することで、仲間を増やしていくことが出来た。その「共同養育」の性質が、現代の人間にも遺伝子にすり込まれて残っているということだ。

教祖がお説き下さった「せかいぢういちれつわみなぎよたいや、たにとゆうわさらないぞや」という教えが光って見えた。
(は)